



技術の進歩によって医療において、さまざまな先進的な医療技術が導入されています。その一つに、ロボット支援手術があります。ロボットが手術をするわけではなく、「マ・ウインチェンス



徳島大学病院泌尿器科
金山博臣科長

ロボット支援手術をご存じですか

な手術では、二つの関節を持った持針器により、どのような方向からも自由に針を運ぶことができ、難しい縫合が簡単に確実にできます。今までの開腹手術や腹腔鏡手術では考えられませ

従来の手術に比べて手術成績は良好で、出血や術後の尿失禁などの合併症を減らすこともできます。また、6力所の小さな傷ができるだけなので、患者さんの負担は少なく、早期退院が可能です。ただし、触った感覚が無いので、思った以上に力が加わって危険な場合もあり、十分なトレーニング、技術の習得が必要です。

テム」という手術支援ロボットを用い、5、6力所の穴から患者さんの体内に挿入した機器を、離れた場所から操作して手術を行います。拡大された三次元の鮮明な画像を見ながら、人間の手のように自由に動く鉗子やハサミを使って、繊細で正確な手術が行えます。あたかも、おなかの中に顔を出っ込んで、両手を使って手術をしているような感覚です。

前立腺がんの手術では、腎臓の奥の出血しやすい狭い場所から、出血も少なく、非常に詳細で繊細な手術が可能になります。また、ぼんやりと尿道を

あり、現在、四国で導入しているのは徳島大学病院だけです。また、現在は保険適用がなく、多くの患者さんがロボット支援手術の恩恵を受けられないまま、今後、早期に保険適用されることを期待します。

徳島大学病院でのロボット支援手術は、昨年10月から前立腺がんの手術で行っており、今までに5例実施しました。12月には胃の手術も開始しました。今後、食道、大腸、子宮、卵巣、肺、腎の手術などにも導入する予定です。